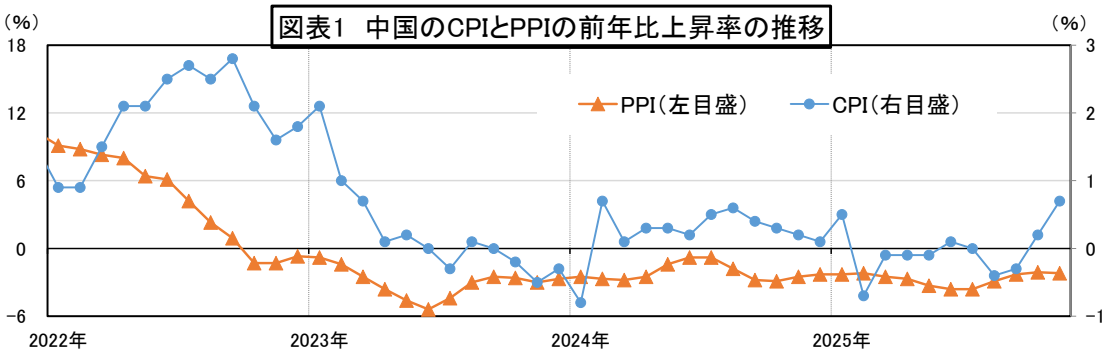
リサーチ＆ソリューション第１部　王雷軒

(中国)11 月の CPI 上昇率は拡大、PPI は 38 か月連続のマイナス

中国では、内需の弱さや一部業種における過度な値下げ競争(いわゆる「内巻」現象)を背景に、低インフレ状態が続いているとみられる。国家統計局が発表した 2025 年 11 月の消費者物価指数(CPI)は前年比 0.7%と 10 月(同 0.2%)から上昇率が拡大し、2 か月連続のプラスとなった(図表 1)。CPI の構成項目を見ると、食料品価格は 0.2%と 10 月(同▲2.9%)からプラスに転じた。これが CPI 上昇率の拡大をもたらす主因である。

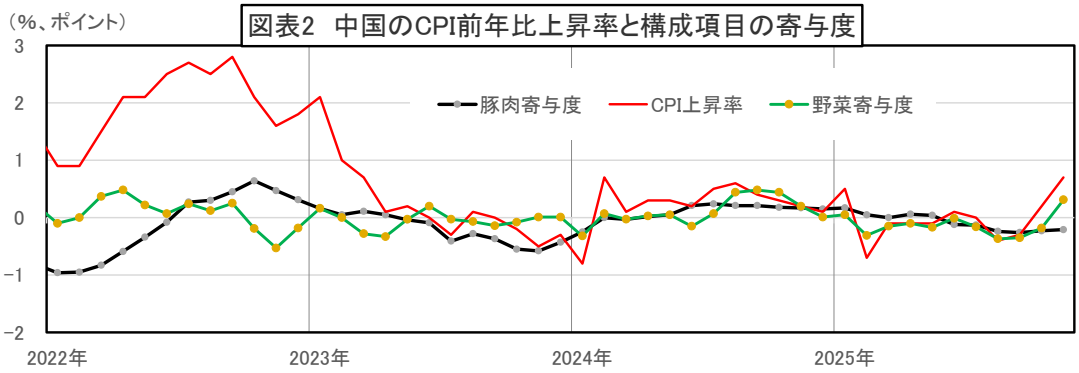
図表1　中国のCPIとPPIの前年比上昇率の推移



(資料)中国国家統計局、Windより作成、直近は25年11月。

食料品のなかでは、9 か月連続で下落していた野菜価格が同 14.5%と 10 月(同▲7.3%)からプラスに転じ、CPI 全体の上昇率(前掲 0.7%)への寄与度は 0.31 ポイントとなった(図表 2)。野菜価格の上昇は 10 月中旬以降の天候不順による供給量減少が背景にある。一方、豚肉価格は同▲15.0%と下落し、寄与度は▲0.21 ポイントとなった(図表 2)。ガソリン価格は、国際原油価格の下落を受け、同▲7.5%と 10 月(同▲5.5%)から下落幅が拡大した。価格変動の大きい食料品・エネルギーを除いたコア CPI は同 1.2%と 10 月から変わらなかった。

図表2　中国のCPI前年比上昇率と構成項目の寄与度



(資料)中国国家統計局、Windより作成、直近は25年11月。

他方、生産者物価指数(PPI)の下落幅は予想ほど改善しなかった。11 月の PPI は前年比▲2.2%と下落幅が拡大し、38 か月連続のマイナスとなった(図表 1)。前月比では 10 月から変化はなかった。「供給強・需要弱」という構造の調整には、しばらく時間がかかる見通しである。

今後の物価については、内需拡大策の効果などにより、CPI の前年比上昇率は回復していく可能性が高い。ただし、PPI が前年比下落の局面から脱却するには、なお時間を要するであろう。

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます　https://www.nochuri.co.jp/